千葉大学附属図書館報　ISSN 1346-6771

InfoPort

講演会報告
What's the Informationist？

寄稿
アダム・スミスコレクションへの追加（4）

連載
学部図書室紹介（法経学部経済学科）

企画展示報告
故沼田眞名誉教授の歩み

TOPICS
夜間開館時間延長（園分）
BOOKPLUSサービス開始
雑誌記事索引とOPACが連携

No. 4
2002.10
The Chiba University Library Bulletin

Library Topics

園芸学部分館　夜間開館時間延長について

平成14年度は下記の期間、開館時間を １時間延長し、20時閉館のところを21時閉館とします。

2002年９月24日㈫ － 2003年２月12日㈬

（ただし、土、日、祝日、年末年始を除く）

BOOKPLUSサービス開始

BOOKPLUS(NICHIGAI/WEB)は、和書の目次･あらすじまで検索できる図書情報データベースです。1986年からのデータには目次･あらすじが表示され、昭和元年からの国内出版物の書誌データも収録しています。また千葉大学蔵書検索（ＯＰＡＣ）へのリンクが表示されますので、検索結果を引継いで速やかに千葉大の所蔵を確認できます。

利用条件は、学内ＬＡＮ限定･24時間アクセス･同時利用可能ユーザー１名です。

http://www.ll.chiba-u.ac.jp/~kikaku/online/bookplus.html

雑誌記事索引、千葉大ＯＰＡＣと連携

国内雑誌の記事･論文が検索できる雑誌記事索引(NICHIGAI/WEB)の検索結果に、千葉大学蔵書検索（ＯＰＡＣ）へのリンクが表示されるようになりました。ここをクリックすると雑誌ＩＤ（ＩＳＳＮ）をＯＰＡＣへ引継ぎそのまま検索結果が表示されます。

これにより、雑誌記事索引検索結果から迅速に学内の蔵書を検索することができるようになりました。

http://www.ll.chiba-u.ac.jp/~kikaku/online/zassaku.html

秋の講習会予定

電子ジャーナル各サービスの新機能や使い方全般に関する講習会や、SD認定トレーナーによるScience Directの説明会を各館で開催します。ぜひご参加ください。また本館では、レポート論文の作成やプレゼンテーションの講習会も実施します。

それぞれの詳しい日程は下記ページ、あるいは各館内の掲示等でご確認ください。

http://www.ll.chiba-u.ac.jp/~kikaku/guide/plan.htm

表紙: 常設展示『レオナルド･ダ･ヴィンチ手稿』の展示資料、「レオナルド素描集成 / 解説:L.C.アラーノ ; 日本版監修:沢柳大五郎. - みすず書房, 1984」から『頭部における比例を扱った男の側面胸像　馬と乗り手の習作』（原画 ヴェネツィア･アカデミア美術館蔵）

連載　学部図書室紹介

【第３回】　法経学部経済学科資料室

法経学部経済学科資料室　　二　宮　美　子

経済学科資料室は、法経学部棟３階（313）にあり、経済学･経営学･会計学関係の専門的な資料を所蔵しています。

資料室は、新着雑誌閲覧室、専門図書書架室、雑誌製本室の３つのコーナーに分かれています。新着雑誌閲覧室には、経済学関係の学術雑誌（2002年度 洋雑誌約230種類、和雑誌約70種類）および国内外の銀行等から寄贈される月報等を配架しています。専門図書書架室には、経済学関係の専門図書（和書）の他に、辞典･辞書、目録、年報、統計白書等のレファレンス図書を配架しています。なお、洋書については、社会文化科学系総合研究棟に新設された資料室に移動し、現在配架準備を進めています。

資料の特色として、東欧雑誌の充実、経営資料集大成、経済安定本部戦後経済政策資料、太平洋戦争白書、マルクス=エンゲルス全集、レーニン全集、J.S. Mill, J. M. Keynes, Adam Smith, D. Ricardo, Sir. J. S. Hicks, W. S. Jevons, T. R. Malthus, A. Marshall, K. Marx, P. A. Samuelson, J. A. Shumpeter などの基本的かつ重要な全集･シリーズが整っていることがあげられます。なお、経済学の古典を集めたアダム･スミスコレクションは、現在附属図書館の貴重書室に保管されています。その他に、マイクロ資料利用のためのリーダープリンターと検索用のパソコンが各１台、閲覧用の机と椅子４席が設置されています。

資料室の利用者は教官、院生、学部3, 4年生が中心ですが、最近は他学部の方や、学部１年生の基礎ゼミナール受講者が授業の準備のために資料収集で利用することも多くなりました。また、附属図書館を通して、学外の研究者や他大学の学生にも利用されています。

図書の貸出は、学生の方は１週間まで可能です。雑誌やレファレンス資料については複写のための一時貸出を行っています。

これから秋も深まる頃には、資料室の窓一面に銀杏の黄葉の風景が広がります。どうぞお気軽に資料室にお越し下さい。

場　　所：法経学部棟３階（313）ほか
開室時間：9:00～12:00, 13:00～17:00
休 室 日：土・日曜、祝日、年末年始　等

講演会報告

What's the Informationist?

―Pamela C. Sieving 氏 講演会

８月２日㈮、米国National Institutes of Health Library（国立衛生学研究所図書館、以下、NIH）からPamela C. Sieving氏を招聘して、標記のタイトルで講演会を開催しました。

Sieving氏は８月３日～４日に幕張で開催された「国際網膜世界会議」に出席するDr.Sievingに同行して来日。同会議に出席する安達亥鼻分館長の提案により、今回の講演会が実現しました。当日は、学外の医学図書館員（岡山県や愛知県からも参加）や学内の教員も含め多数の方が参加されました。なお、講演の通訳は医学部附属病院の田川まさみ先生にお願いしました。

NIHはMaryland州 Bethesdaにある広大な敷地に15の建物から成る研究所（18,000人が働いているとのこと）で、図書館には50人のスタッフが働いています。Sieving氏はNIHにおける最初のInformationistとのことです。Informationistは日本においてはなじみのない用語です。一体どのような職種で何をする人なのか、Informationistの現在の状況及び将来の課題と展望について、講演の内容から概略を報告します。

講演内容

Informationist の生まれた背景

Sieving氏によると、Informationistは新しい概念であり、それまではClinical Librarian（臨床図書館員）として、医学図書館において活動してきました。Clinical Librarianの目標は、個々の患者に即した情報をタイムリーに提供すること、医療提供者の情報検索技術を高めること、医療提供者の教育に貢献すること、医学図書館員の地位を高めること、でした。

そのような活動の中で次の段階としてInformationistという概念が生まれました。2000年のMLA（米国医学図書館協議会）の会議においてその役割を討議し、2002年には、保健関係団体も含めたMLAとNLM（米国国立医学図書館）の合同会議においてInformationistについて全国レベルでディスカッションを行うこと、定義についてコンセンサスを得ること、臨床及び研究領域における行動勧告を策定することを目標として討議を行いました。

先ずClinical Informationist（臨床インフォメーショニスト）が何故必要とされるのかという点については、医学の情報量は19年毎に倍増している、米国では医療過誤により毎年少なくとも44,000人の患者が亡くなっている、米国では患者一人当たりの平均診療時間は7-10分、ほとんどの臨床医の情報検索回数は１週間に１回以下である、電子的な検索は複雑である、臨床医は情報検索に必要とされる技術に対して限られた関心と専門知識しか持ち合わせていない、時間のない臨床医はフィルタにかけられた要約した文献を利用する傾向にある、等の理由をあげられました。ひとつの例として、2001年のジョンズ･ホプキンス大学において、ある健康なボランティアが死亡しましたが、これは1950年代に副作用が報告されていたにもかかわらず文献検索が不適切だったためとのことでした。

Informationist は何をする人か，どこにいるか

Informationistは実際どんなことをしているのでしょうか。患者ケアチーム（医師、ナース、薬剤師、セラピスト、学生）とともに「回診」する、要求された情報を提供する、必要な情報を予測する、個別のニーズに応じて情報を教える、知識ベースの形成に関与する、などです。

また、Clinical Informationistがどこにいるかという点については、外来、回診、医学関連のカンファレンス、ミーティングなどで、図書館にはあまりいないそうです。

Informationist の要件

Clinical Informationistであるためには、伝統的な図書館員の技術を有すること、EBM [1] に関する訓練を受けていること、情報に第一義的な責任を果たすこと、情報要求に応えるため図書館のサポート（検索環境の整備など）を継続的に改善していくことが必要です。

Informationistになるためには、臨床の仕事に必要な訓練を受けることと、情報科学の知識の両方が必要です。それには様々な選択肢があり、２つの学位（生物科学と図書館学）を取るプログラム、特別訓練プログラム（NLM)、継続教育コース、仕事をしながらのトレーニングなどがあげられます。Sieving氏は図書館員の仕事をしながらトレーニングを受け、NIHで最初のInformationistとなりました。

Research Informationistの役割

InformationistにはClinical Informationistの他にResearch Informationistがあります。研究者は、自分の研究領域以外の文献検索、不慣れな分野の技術と知識の応用、最新の研究情報の入手などにInformationistの様々な支援を必要としています。例えば，動物実験が愛護団体の活動により厳しい制限を受けるため、実験によらず動物モデルについて文献検索が必要とされる場合もあります。

その他の活動

Informationistは情報の創出にも関与しています。メタ情報や知識ベースの形成、データベース生産者との協力や、エビデンスに基づくプログラム（コクランコラボレーション [2]）への参加、あるいは国際プログラム及び第３世界向けプログラムの組織などの活動も行っています。実際にSieving氏自身もNIH内での活動のほかに外部活動（WHO、コクランコラボレーション- 眼科分野を担当など）も行っています。

１） EBM（Evidence-Based Medicine 根拠に基づく医療）

個々の患者のケアに関して、その時点の入手可能な科学的根拠に基づき、臨床判断を下して医師がその専門技術をもって理にかなった医療を行うことを呼ぶ。1991年カナダのマクマスター大学のGuyattが初めて提唱し、その後Sackettを中心としたワーキンググループがその方法論や概念を整理、普及させてきた。

２） コクランコラボレーション（コクラン共同計画）

EBMを実践するための、最も有用な情報源のひとつThe Cochrane Libraryを作成している国際組織。英国の医師で疫学者であるアーチボルド･コクランの提唱にこたえたもので、世界中のボランタリな尽力により急速に発展している。システマティック･レビューのデータベース（CDSR）やランダム化比較試験（randomized controlled trial:RCT）などのデータベース（CENTRAL）が含まれ、みずからが設定した疑問点に関するエビデンスの有無を手早く知ることができる。

障害および課題

しかし、様々な障害もあるようです。例えば、学術的なプログラムが確立されていないこと、学位の追加やトレーニングに個人的なコストがかかるのに回収できるかは不透明であること、臨床医や研究者が権威を放棄したり限界を認めることに抵抗があること、などです。

課題については、図書館員とは何かという問題に対する新モデルと旧モデルとの対立、継続学習に要する時間の増加と予算の減少、同一機関内のInformationistの２層構造、費用を誰が負担するのか、新しいプログラムの評価などがあげられます。

将来への課題と展望

将来への課題としては、更に多くの情報に対してアクセスを増加させること、新技術を学ぶこと、より良い医療に対する需要、コストの削減、バイオテロなどの健康に対する新たな脅威、医療倫理や患者の権利への配慮といったことがあげられました。

最後に、Robert Bressonという映画製作者の”Make visible what, without you, might never have been seen”（あなたがいなければ決して見えなかったものを見えるようにしなさい）という言葉を投げかけて講演を終了しました。

終わりに

講演を聞きながら、日本の医学図書館における現状との格差を特に感じました。Clinical Librarianの存在についてはかなり以前から聞いていました。日本の医学図書館員（あるいは病院図書館員）も臨床医あるいは研究者の情報要求に対して必要な情報を提供することにはかなり努力をしています。しかし、「回診」に同行したり、カンファレンスに参加することまで実際に行っている医学図書館（病院図書館）はあるでしょうか。

臨床医を取り巻く状況（医学の情報量の加速度的な増加、平均診療時間が10分以内、医療過誤、など）は、日本も米国とさほど変わりませんが、医学図書館の置かれている状況にはかなり差があります。また、ＮＩＨの図書館やＮＬＭ（米国国立医学図書館）のような国立の医学図書館もありません。

現在、日本医学図書館協会において、米国の医学図書館協会等の資格制度を参考に、認定資格の規程を検討しているようです。また、継続教育コースや種々の研修も実施しているのは、Informationistに一歩近づけるための方策といえるかもしれません。

しかし、一方でSieving氏の、図書館の仕事をしながら学位をとり、コンピュータなどの新技術を学び着実にキャリアを積み上げ、Informationistの職に就いたという個人の努力も看過することはできません。Robert Bressonの言葉に象徴されているように。

○この講演会報告の追加情報は、図書館ホームページの図書館発信情報に掲載します。

CONTRIBUTION

アダム・スミスコレクションへの追加（４）

法経学部教授　野　澤　敏　治

J. S. Mill, A System of Logic. 2vols, 3rd ed., London, J. W. Parker, 1851

Ｊ．Ｓ．ミル(1806-73年)は19世紀イギリスの経済学者であり社会改革家である。その彼は本格的な政治経済の著作活動を開始する前にかなりの時間をかけてここに紹介する『論理の体系』（1843年、初版）を書いているのであるが、このことはあまり知られておらず、その意味も省みられることが少ない。それよりも彼の生涯を特徴づけているものの一つは父ミルから猛烈な英才教育を受けたことであろう。彼は３才でギリシャ語の古典を、８才でラテン語の古典を学び、同じ年頃の子供との遊びを知らないままに、なんと13才で当時出たばかりのリカード『経済学原理』（1817年）を学習させられたのである。その後24才頃に彼は論理学に関心を抱き、推理はどうしたら正しくなされるか、認識上の誤謬はどこに発生するかということを探究するようになる。これは一見すると抽象的な議論でしかないように見えるが、その背景には実践上の問題に関わってどうしても鍛えておかねばならなかった方法上の問題があったのである。それは彼の『自伝』を参考にしてみれば次のようなことであった。

『論理の体系』の中では帰納法についての議論が展開されている。帰納法は17世紀のベーコンに起源をもち、イギリスに特徴的となった思考方法であると見られることがあるが、実際にはその方法を採用する者はミルの時代に入っても少数であった。時代は環境的にも良くなく、ナポレオン戦争終結後の1815年には神聖同盟が結ばれ、思想的には反動期であった。この時の論理学の主流はドイツ的な先験的直観派にあったらしい。直観派は真理を絶対的で必然的なものとみなし、それは人間の心中にある直観によって認識できると考えていた。保守派は既成の制度を擁護するためにこの直観的認識（→宗教的真理）を認識の底におき、その偏見を心中の信念や強い内面感情で支えていたのである。彼らは男女間や民族間の性格の違いは生得のものであって環境によって作られたものではないから変えようがないと考え、社会改革の動きを妨げていた。それに対してミルは既成事実の絶対性は外見的であり、真実は人間の精神の外にあるものであって、人間はそれを観察と経験によって知ることができると考える。彼は社会改革を推進するのであるが、この経験的認識を使って他人にその社会改革の正当性を説得することができると考えるのである。

この本は生前に８版を重ねるほどによく読まれた。本コレクションに収めるのはその第３版である。これの初版が出た後で『経済学原理』（1848年）が刊行される。

我々の社会科学研究のありかたを振り返ってみると、個別の専門的研究に入る前に予めこのようにして知識獲得の方法を体系的に学ぶことは少ない。また我々が自分の中にある意識下の「日本の思想」（丸山眞男）を対象化してそれと対話することもあまりない。かつて中谷宇吉郎は『続冬の華』（1940年）の中で人は学問的議論をする時でも「金中猶蟲あり、雪中蟲無んや」の類の「語呂の論理」に陥ることがあると指摘していた。ゴロのロンリとは天保期に鈴木牧之が『北越雪譜』の中で示していたものであって、金属が錆びるのは金属の中に眼に見えないほどの小さな虫が発生して腐るからであ

り、この金属に虫が発生するくらいだから雪の中にも発生しうるだろうという論理である。中谷はこの種の偽論理が自分の周りでも知の名において行なわれていることを警戒する。その一例として彼はマイナス･イオンの効用をめぐる研究者間の議論を取りあげた。それによれば、マイナス･イオンの神経沈静作用は当時既に実験的にも確認されていたのであるが、論者はそのことを聴者に納得させるために不用意にも（無意識に）プラス･イオンはマイナスの反対だから興奮的に作用するはずだと主張してしまったらしい。プラス･イオンの作用については実験結果で確かめられることをただ述べればよかったのに、そこには実証を伴わない論理の飛躍があったのである。この種の「語呂の論理」は実は空気のように我々研究者をも取り囲んでいるのである。

企画展示報告

「故沼田眞名誉教授の歩み」

―沼田生態学と自然保護活動

６月10日㈪から７月31日㈫までの期間、附属図書館本館１階展示コーナーにおいて標記の展示会を開催しました。

沼田教授は生態学、自然保護、環境教育、都市景観学等、幅広い分野で活躍された方で、千葉大学においては理学部長、附属図書館長(1980-83年)を務められました。退官後は千葉県立中央博物館の初代館長として尽力されましたが、2001年12月に84歳で逝去なさいました。

この展示会は千葉県立中央博物館で開催された追悼展の展示物を借用し、元理学部教授で現東京大学の大沢雅彦教授からご提供頂いた研究報告書や貴重な写真、また理学部の協力を得て沼田教授の足跡を図書館の蔵書も交えながら紹介したものです。
展示資料は先生のお写真や自筆原稿(写し)、新聞･雑誌の記事や標本、図書館で所蔵している著作等です。また足跡をたどるスライドショーを作成し展示会場で上映しました。
展示には学内、学外を問わず、多くの方が足を留めて下さいました。先生の幅広い業績に多くの方が感銘を受けられたようです。

図書館の小さなスペースでの展示でもあり、不備な点もあったかと思いますが様々な協力を得てほんの一部ですが先生の業績をご紹介することができました。

最後にみなさんからおよせいただいたご意見、ご感想を一部ご紹介します。

・今まで全く知らない方でしたが、私にとってとても興味ある分野を研究していたので見ていきました。このような機会があってとてもよかったです。(学生)
・すばらしい、あこがれの先生に生前に会いたかった。(学生)
・具体的な研究内容をもっと知りたいと思いました。(学生)

・自然保護に取組み貢献された方が千葉大学に居られたことをしりました。学生にもっと知ってほしい。(職員)
・先生の業績のすばらしさに驚きました。(教員)
・（展示は）小規模だったが、お人柄を十分感じ取れるものでした。(学外)
・私の学生時代「竹林の研究」に関した事を授業の中で説明されたことを憶えています。(学外)

教員からの寄贈著書（平成14年3月～平成14年8月配架分）

次の方々から著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。（50音順　敬称略）

【本　館】

植田　毅　（基盤センター）
・計算物理/夏目雄平,植田毅著;2.- 朝倉書店,2002.-(基礎物理学シリーズ/清水忠雄,矢崎紘一,塚田捷監修;14)
（本館閲覧室3階　420/KIS）

大野　隆司　（工）
・写真のケミストリー /画像工学シリーズ編集委員会編;三位信夫,大野隆司編著;久下謙一,小林裕幸著.- 丸善,2001
（本館閲覧室3階　547.8/SHA）

金田　章宏　（留セ）
・八丈方言のいきたことば:民話・伝説・談話対訳付/金田章宏著.- 笠間書院,2002
（本館閲覧室4階　818.369/HAC）

加納　博文　（理）
・Fundamentals of adsorption 7 / editors: K. Kaeko, H. Kanoh, and Y. Hanzawa - IK International , c2002
（本館書庫　431.86/FUN）

菅野　憲司　（文）
・言語研究の軌跡と奇跡に向けて/菅野憲司著.- 開拓社,2002
（本館閲覧室4階　801/GEN）

木下　豊房　（名誉教授）
・ドストエフスキーその対話的世界/木下豊房著.- 成文社,2002
（本館閲覧室4階　980.2/DOS）

木下　勇　（園芸）
・スロースペース/木下勇編著.- 木下勇(千葉大学園芸学部),2002
（本館書庫大型　318.7/SUR）

桑田　次男　（名誉教授）
・杏林閑歩/桑田次男著-増補-桑田次男,2002.- 丸善出版サービスセンター制作
（本館閲覧室4階　914.6/KUW）

首藤　久義　（教）
・發智能:いとひばとともに歩んだ学舎:千葉県君津市立福野小学校創立百周年・閉校記念誌/福野小学校創立百周年記念・閉校事業実行委員会編.- 福野小学校創立百周年記念・閉校事業実行委員会,2002.－分担執筆
（本館書庫大型　376.28/HAT）
・オープン学習でひらく心とことば:山里の小さな学校で/田中文枝著;首藤久義監修.- 東洋館出版社,2002
（本館閲覧室3階　375.1/OPU）

鈴木　敏恵　（教）
・21世紀の高校生きる力はITで!:情報教育・ポートフォリオ・進路 学校を元気に、未来的にしよう!/鈴木敏恵編著;有馬朗人〔ほか述〕- 学事出版,2002
（本館閲覧室3階　375.199/21S）
・ポートフォリオで進路革命!:就職&進学成功・インターンシップ・評価指標:AO入試・デジタルポートフォリオ/鈴木敏恵編著.- 学事出版,2002
（本館閲覧室3階　375.25/POT）

多賀谷　一照　（法）
・電子政府・電子自治体/多賀谷一照編.- 第一法規出版,2002
（本館閲覧室3階　317.6/DEN）

田畑　貞寿　（名誉教授）
・水源林地域を主体とした多摩川流域の解析評価と環境管理に関する調査・研究/田畑貞寿.- とうきゅう環境浄化財団, 2002
（本館書庫　652.136/SUI）

田中　博之　（教）
・小出郷文化会館5周年記念誌創刊号- 小出郷広域事務組合,2002.- 表紙絵担当
（本館書庫大型　379.2/KOI）

田村　孝　（教）
・西洋古代史料集/古山正人,田村孝[ほか]編訳.- 第2版.- 東京大学出版会,2002
（本館閲覧室2階　231/SEI）
・躍動する古代ローマ世界:支配と解放運動をめぐって:土井正興先生追悼論文集/倉橋良伸,田村孝[ほか]編.- 理想社,2002
（本館閲覧室2階　232/YAK）

栃木　孝惟　（名誉教授）
・軍記物語形成史序説:転換期の歴史意識と文学/栃木孝惟著.- 岩波書店,2002
（本館閲覧室4階　913.43/GUN）

中村　光男　（名誉教授）
・ブント書記長島成郎を読む/島成郎記念文集刊行会編著.- 情況出版,2002.-(島成郎と60年安保の時代;1)- 共編
（本館閲覧室3階　309.31/SHI）

教員からの寄贈著書（平成14年3月～平成14年8月配架分）

・60年安保とブント(共産主義者同盟)を読む/島成郎記念文集刊行会編著.- 情況出版,2002.-(島成郎と60年安保の時代;2)- 共編
（本館閲覧室3階　309.31/SHI）

夏目　雄平　（理）
・計算物理/夏目雄平,小川建吾著;1.- 朝倉書店,2002.-(基礎物理学シリーズ/清水忠雄,矢崎紘一,塚田捷監修;13)
（本館閲覧室3階　420/KIS）

半田　吉信　（法）
・債権/甲斐道太郎,石田喜久夫編.- 第2版.- 法律文化社,2002.-(新民法教室/甲斐道太郎,石田喜久夫編;2)- 分担執筆
（本館閲覧室3階　324/SAI）
・全国銀行学術研究振興財団研究助成論文集3号/全国銀行学術研究振興財団[編].- 全国銀行学術研究振興財団,2002.- 分担執筆
（本館閲覧室3階大型　338/ZEN）
・親族法・相続法/小野幸二編.- 全訂版.- 法学書院,2002.-(演習ノート)- 分担執筆
（本館閲覧室3階　324.6/SHI）

日野　照純　（工）
・最新の炭素材料実験技術/炭素材料学会編;分析・解析編.- サイペック,2001.- 分担執筆
（本館閲覧室3階大型　501.5/SAI）

三浦　義彰　（名誉教授）
・食卓の生化学/三浦義彰,小野直美,橋本洋子著.- 医歯薬出版,2002
（本館閲覧室3階　498.55/SHO）

水谷　武司　（理）
・自然災害と防災の科学/水谷武司著.- 東京大学出版会,2002
（本館閲覧室3階　519.9/SHI）

三宅　明正　（文）
・世界の動きの中でよむ日本の歴史教科書問題/三宅明正著.- 梨の木舎,2002.-(教科書に書かれなかった戦争/アジアの女たちの会,8.15とアジアグループ(アジア文化フォーラム)編;Part39)
（本館閲覧室2階　210.75/SEK）

【亥鼻分館】

木下　安弘　（名誉教授）
・PO臨床診断マニュアル/H.Harold Friedman編;木下安弘[ほか]訳.- 第7版 - メディカル・サイエンス・インターナショナル,2002.- 共訳
（亥鼻閲覧室　WB141）

桑田　次男　（名誉教授）
・杏林閑歩/桑田次男著- 増補- 桑田次男,2002.- 丸善出版サービスセンター制作
（亥鼻閲覧室　WZ100）

小室　一成　（大学院医学研究院）
・心臓における生命現象の分子生物学/小室一成編著.- メディカルレビュー社,2001
（亥鼻閲覧室　WG200）
・目でみる循環器病フロンティア:ベーシック&クリニカルサイエンス/小室一成編集.- メジカルビュー社,2002
（亥鼻閲覧室　WG100）

舟島　なをみ　（看）
・看護教育学研究:発見・創造・証明の過程/舟島なをみ著.- 医学書院,2002
（亥鼻閲覧室　WY18）

正木　治恵　（看）
・糖尿病のある生活とナーシング/大森武子,尾岸恵三子編著.- 医歯薬出版,2000 - 分担執筆
（亥鼻閲覧室　WY155）
・看護栄養学/尾岸恵三子,正木治恵編著.- 第2版 - 医歯薬出版,2002.- 共編著3冊
（亥鼻閲覧室　QU145）

三浦　義彰　（名誉教授）
・食卓の生化学/三浦義彰,小野直美,橋本洋子著.- 医歯薬出版, 2002.- 共著
（亥鼻閲覧室　QU145）

【園芸学部分館】

沖津　進　（園芸）
・植生環境学:植物の生育環境の謎を解く/水野一晴編.- 古今書院, 2001.- 一部執筆
（園芸閲覧室　471.71/S）

木下　勇　（園芸）
・スロースペース/木下勇編著.- 木下勇(千葉大学園芸学部),2002
（園芸閲覧室　518.8/S）

千葉大学附属図書館運営委員会（平成14年４月１日現在）

附属図書館長	草刈　英榮	工学部	三宅　洋一
亥鼻分館長	安達惠美子	園芸学部	三位　正洋
園芸学部分館長	松井　弘之	医学部附属病院	田邊　政裕
総合メディア基盤センター長	島倉　　信	大学院社会文化科学研究科	前田　彰一
文学部	三宅　明正	大学院自然科学研究科	吉田　英信
教育学部	伏見　陽児	留学生センター	畠　弘巳
法経学部	村山　眞維	外国語センター	ボズウェル ポール デュアン
理学部	日野　義之	環境リモートセンシング研究センター	三輪　卓司
大学院医学研究院	栗山　喬之	真菌医学研究センター	山口　正視
大学院薬学研究院	齊藤　和季	事務局長	佐藤　政夫
看護学部	正木　治恵		

人　事　異　動

（新任）　平成14年4月1日
附属図書館長（併）
　草刈　英榮（教育学部教授・副学長）

（退任）　平成14年3月31日
　土屋　俊（附属図書館長（併））

（再任）　平成14年4月1日
附属図書館亥鼻分館長（併）
　安達　惠美子（大学院医学研究院教授）

（転入）　平成14年4月1日
情報管理課長
　京藤　貫（国立情報学研究所
　　開発・事業部コンテンツ課長）
情報サービス課長
　尾城　孝一（国立国会図書館
　　逐次刊行物部雑誌課副主査）
情報サービス課閲覧・参考係長
　吉野　明美（東京大学工学系研究科
　　学術協力課学術情報掛）
情報管理課雑誌・電子情報係
　田川　裕美（国立歴史民俗博物館
　　管理部資料課図書係）

（転出）　平成14年4月1日
東京大学附属図書館総務課長
　平元　健史（情報管理課長）
国立情報学研究所開発・事業部コンテンツ課長
　大場　高志（情報サービス課長）
東京大学附属図書館情報管理課資料契約掛長
　山本　和雄（情報管理課雑誌・電子情報係長）
国立歴史民俗博物館管理部資料課図書係
　松木　尚巳（情報サービス課亥鼻サービス係）

（昇任）　平成14年4月1日
情報管理課図書館専門員
　志賀　秀枝（情報サービス課相互利用係長）
情報サービス課相互利用係長
　佐藤　啓威（園芸学部図書係）

（配置換）　平成14年4月1日
情報管理課雑誌・電子情報係長
　加藤　晃一（情報サービス課閲覧・参考係長）
情報管理課亥鼻情報係
　森　一郎（情報サービス課情報サービス企画係）
情報サービス課亥鼻サービス係
　米田　奈穂（情報管理課亥鼻情報係）
園芸学部図書係
　淺野　祐一（情報管理課雑誌・電子情報係）

（採用）　平成14年4月1日
情報サービス課情報サービス企画係
　武内　八重子

（退職）　平成14年3月31日
　有岡　圭子（情報管理課図書館専門員）

行　事　日　誌（平成14年４月～８月）

４月24日	平成14年度千葉市図書館情報ネットワーク協議会第1回理事会（千葉センシティータワー）
４月26日	第58回関東地区国立大学図書館協議会総会（湘南国際センター）
５月17日	平成14年度千葉市図書館情報ネットワーク協議会総会（幕張ベイタウン・コア）
５月21日	平成14年度国立大学附属図書館事務部課長会議（学術総合センター）
５月23日	平成13年度第4回国立大学図書館協議会理事会（東京大学）
６月11日	平成14年度第1回附属図書館運営委員会
６月26日-27日	第49回国立大学図書館協議会総会（鳥取県立県民文化会館）
７月５日	第52回国公私立大学図書館協力委員会（中京大学）
７月15日	平成14年度第1回外国雑誌検討専門委員会
７月26日	平成14年度第2回附属図書館運営委員会
７月26日	平成14年度第1回附属図書館自己点検・評価委員会
７月29日	平成14年度第1回資料選定専門委員会

千葉大学附属図書館報 InfoPort No.4
平成14年10月発行
編集・発行 千葉大学附属図書館
〒263- 8522 千葉市稲毛区弥生町1- 33
TEL: 043-290-2262
FAX: 043-290-2266
URL: http://www.ll.chiba-u.ac.jp/